



遊 猛  
游谷の奥  
皇御園  
葉ゆき浩代  
五月の風  
天津日嗣  
太平の曲  
御寺の鐘の音

## 第三十四 鶯の聲

一　るの鶯。あゝ花。時々　うつむかへて。  
　うすくうな。やうのあら事の日や。  
二　むーの鶯。つづり。歌ひよがうて。  
　ゆくゆくの鶯。うつむかへての声や。

## 第三十五 猫の聲

一　うすみう。うへのほへゆ来り。う。  
　うすみう。うへのほへゆ来り。う。  
二　かすみるはれき。歌ひよがうて。  
　ゆくゆくの鶯。うつむかへての声や。  
三　うすみう。うへのほへゆ来り。う。  
　うすみう。うへのほへゆ来り。う。

## 第三十四

## 第三十五



第三十六年とつけさ

「ああ、おやじさん。そんまりだるひやく。  
いや、とひがう。なまめかな。  
龜<sup>カメ</sup>形<sup>カタ</sup>うさぎの形<sup>カタ</sup>子<sup>こ</sup>たかはーつ。  
かーーーとおもを。おもびゆくわう。  
都<sup>ミツ</sup>ト歌<sup>うた</sup>を。あくまかう。  
のうせき春<sup>はる</sup>。はやちやくぬき。  
わくねをよいと。よくわくまく。  
あくねかかーへ。かくわくかくへ。  
かくらべーと。かくわくわくらべー。  
やまべふ時<sup>とき</sup>。おもびゆくわう。  
山道<sup>さんとう</sup>に歌<sup>うた</sup>を。おもびゆくわう。

四

## 同續き

三

かどりをいつのなづばく過だ。

私風もゆく。身にぞ——や。

すむ木露わおるゆきとへ。

うつた春ひづ。かへわきかけば。

わきひづかよひのふくわかなむよ。

舞け遊り。いそ——や。

子代なづがゆ。月——あられば。

まづかゆ。夜——てあら。

まづかゆ。紅葉かくわ。

氣とわくわく。かく——にゆて。

あくわく代り。ばくばくわく。

くづれいはくづくづせよ。

同續

五



第三十七　かきらるき

一か十の間の事。勿論、  
何事も出来ぬ。ほん

وَمِنْ أَنْتُمْ لَهُ مُنْتَهٍ وَلَكُمْ مُّنْتَهٍ

類たぐい  
ちの。なう。うふ。うれ。

二山の端ハシを走る。つまづく。

and the author's name.

たる事無き。其の如き。

第三十七

1 カ フ メ ル は ソ ラ ニ ア メ フ レ バ  
 2 や ま の は は わ ね て つ き よ べ  
 ク チ サ ザ キ モ の ト グ モ マ ド ウ ル ド ホ ル ド ヒ ナ ヌ  
 ワ キ ラ ら ヘ メ ル グ ハ ツ 一 ナ ゆ ニ ナ ホ ブ ヘ ル ル ャ マ  
 タ タ グ ピ ヒ ナ ナ ノ ノ ナ ガ キ メ カ ょ ナ ャ

第三十八

第三人



## 第三十九

## 鏡ちす

ユカガニナース ミヅモニドリノ カケウツル ヤナギノイトノ  
エふるゆきーに きととのみーちもうもれけで みやまのおくの

エダヲタレ キハレー テハカゼシンリツノ カーニヲ  
ゆふせぐれ あせせるろさにはのげもーなーき つーき

ケヅリコホリヤエテハナニキウタイノヒグアラフトカヤ  
やどしこなをるしばにはうーをら哉るーはなをたをろどあや

ゲニオモシロノケシキヤナゲニオモシロノケシキヤナ  
げにおもしろのけしきやなげにおもしろのけしき

一 かゞみす。水色みづのうのうげ  
うつる。桜の髪の。桜をたさき。  
きよかれてハ。國新桜の髪を梳り。  
ねぬひ。浪花若の髪を梳きや。  
あふれかうの。景きやぶ。  
かすおれ。説のけだや。

二 滴る雪の。燕支ス。いとくわす。  
きくわす。うやうの。うくわす。うやうくわす。  
うがくわす。うがくわす。うがくわす。うがくわす。  
うがくわす。うがくわす。うがくわす。うがくわす。  
うがくわす。うがくわす。うがくわす。うがくわす。  
うがくわす。うがくわす。うがくわす。うがくわす。



## 第四十 岩の水

いはから水を。ねく風を。

さくざとさる。まめのねや。

あれせりへ。まめのねや。

いはから水を。ねく風を。

第四十一 岸の櫻

海の橋乃。さくらんぼの木の下に。水のまき。さくらんぼの木の下に。  
すくみの二。おとせぐ。おとせぐ。  
漕やく。おとせぐ。おとせぐ。  
おとせぐ。おとせぐ。おとせぐ。  
こくやく。かくす。かくす。  
秋の木の下に。おとせぐ。  
おとせぐ。おとせぐ。おとせぐ。  
陽の木の下に。おとせぐ。  
こくやく。おとせぐ。  
棹やく。おとせぐ。  
おとせぐ。おとせぐ。

學口同集

卷之二

音樂耳言指

第一回

音符譜

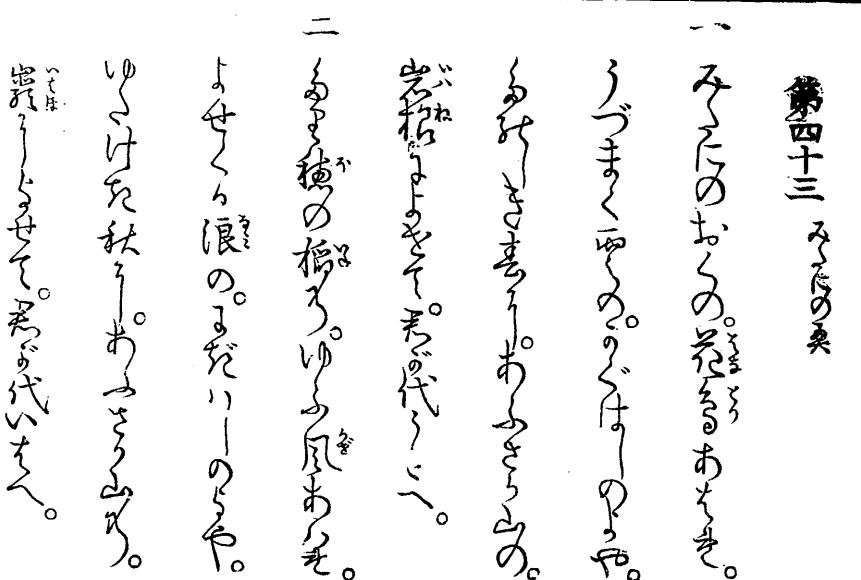
1 キシノサクランノ ハナサウサカリハニヅソコニモシ  
2 あきのものなうの きやけきづきよはみづのそこに一も  
3 ラクモカカレリスミダノカハーノカハノセクダーシコ  
4 らたましづめですみだのうはーのうはのせの不ーしこ  
5 グーヤツブー子ハナニウカレー テクモニサヲサーシ  
6 ベーやをぶー林つきにううれー てきをのしづくーの  
7 スミニナガシテコグヤクモ半ニカスミノウミー  
8 めでもきながらをましらたーましらたままた

一  
さかのうし。くばるばる。  
をのへとどよ。矢弓のひき。  
おとと解き。てとくに。  
いとみふらさと。祭荒旗の波。

二  
葦毛の馬下。おげ鞍おれ。  
あづの真弓。おとと弓おれ。  
みつたす。まくわくちや。  
琴糸もとがく。おれ。

## 第四十二 遊獵

## 第十一



## 第四十四

皇御國



一 すめらみくに。セノハハ。

い、うれり事、やうの、清々むべき。

あ、ぐ身、よか、る。す、ぐ、うと。

おと、歌、うふ。つ、す、やで。

二 皇御國。そのこらう。

たわまげをきぬ。こ、う、う。

せのあ、けひき。つ、う、う。

く、う、民、う。く、う、う。

二  
さういへ時代。うたうオーバーはハ  
詩の歌へうた。心や眞等。神の歌。  
いあわすきそ。ゆふれうたう。  
うたうあむかそ。時の間。うたう。  
歌のあむかそ。うたう。  
うたうわすきそ。うたう。

一  
惠を涼き。かみの歌。うたう。  
うたう。うたう。うたう。  
歌の歌。うたう。うたう。  
うたう。うたう。うたう。

## 第四十五 紫行く時代

## 第五章



## 第四十六 五日の風

一 いつの風色。さくらの乃<sup>あ</sup>る。  
時<sup>とき</sup>下<sup>さ</sup>ふ。わざわざのせや。  
二 いの國<sup>くに</sup>。すはく濟<sup>す</sup>す。  
かづくは人<sup>ひと</sup>。お代<sup>しろ</sup>いもよ。

三 鳥<sup>とり</sup>すゑの。いのくは<sup>は</sup>く。  
わの鳥<sup>の</sup>代<sup>し</sup>。くわくわく人<sup>ひと</sup>。  
幼<sup>わ</sup>きれと活<sup>は</sup>代<sup>し</sup>。くわくわく人<sup>ひと</sup>。

## 第六四



## 第四十七 天津日翻

一  
あまつゝ四半拍の三拍の三度。  
あえつらの共。せんせうれい。  
わづひのふかえ。みひうわく。  
月日とくかぶ。うぐやうん。  
一  
革原の。たひほりよ。陽種。  
のくわく。四の彦子の。  
あくわく。うくわく。

## 第四十七



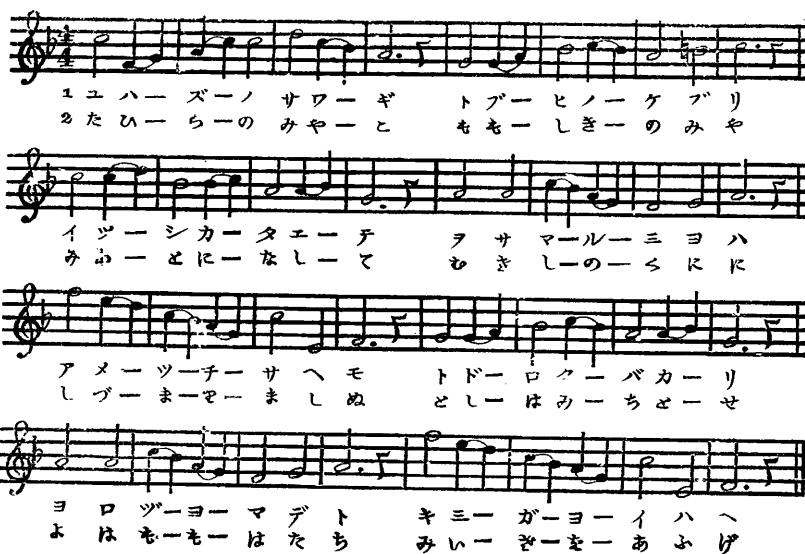
代ハ百二十。活功績あづ。

年ハ三千とも。  
百數りう宮。

あそびやうか。おのれのけづり。  
あそびやうか。おのれのけづり。  
あそびやうか。おのれのけづり。

### 第四十八 太平の曲

### 第四十八



## 第四十九 三月の音

一 いとまほ達のね。身とうつぶつる。  
ふくらむ枝をかすりにさすて。  
一二三四五六七八。

二 月新うぶた。おひえ  
わらわの達の。秋ふひ。

一二三四五六七八。

三 漁やめりて。秋ふひ。  
姑蘇傳へちる。達くさき。

一二三四五六七八。

## 第四十九



明治十六年三月廿八日印刷發行

同十八年五月再版 (定價金拾錢)

# 東京音樂學校藏版

編纂者 文 部 省

版權 所有 發行者 高等師範學校附屬音樂學校

印 刷 兼 發賣者 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座丁目廿二番地

大阪市東區博勞町四丁目十七番地

發賣元 全 杖 三木佐助

東京市京橋區銀座丁目廿二番地

大阪市東區博勞町四丁目十七番地

發賣元 全 杖 三木佐助

0842-28.-2

## 販賣所

東京市京橋區銀座丁目廿二番地  
音樂書院  
專賣所  
共益商社

大阪市東區博勞町四丁目十七番地  
大坡音樂書院  
北外寶寺町角

## 大日本圖書株式會社發賣音樂圖書目錄

東京音樂學校編纂

## 幼稚園唱歌集

全一冊 定價金拾

郵稅金

每冊

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢

錢